

丹波焼の里 ミュゼシター

発行：やきものの里プロデュース倶楽部

2017
spring
vol.
21



市野悦夫作 鉄蒔釉花器

丹波焼の手仕事 匠の技 7
丹波一窯「釉薬」市野悦夫氏
丹波焼の里 最古の登窯
Tanba Style って何？



丹波一窯 市野悦夫
〒669-2135
兵庫県篠山市今田町上立杭387
TEL・FAX 079-597-2654
文・写真 迫田隆

「作品づくりは非常に疲れます。それより食器などを作る方が本当は好きなんです。誰かの生活のために役立っていると思うと嬉しくて、次はこんなものを作りたいと思ってしまう。現代は原料・材料などこのものでも手に入ります。しかしこれからは産地として丹波の香りのするもの、使う人が心地よいものをずっと作っていかたいですね」と語る市野氏の周りには、とても端正なデザインで、几帳面な器が生きていて、身近に置いて使いたくなる器ばかりでした。

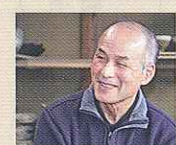
「柿釉」が「一番はじめに取り組んだ釉薬でした。いろいろな「鉄釉」を試しました。もちろん丹波焼の有名な赤土部にも挑戦しましたが、なかなか思い通りの結果が出ず、別の方向から釉薬で美しい赤を表現する努力を重ねて、ようやくこれだというものを生み出すことができました」と「鉄蒔釉」の誕生について話されました。



釉薬のテストピース

伝統のある丹波焼の作家として、地元の人材にこだわりを持っており、作品づくりは非常に疲れます。それより食器などを作る方が本当は好きなんです。誰かの生活のために役立っていると思うと嬉しくて、次はこんなものを作りたいと思ってしまう。現代は原料・材料などこのものでも手に入ります。しかしこれからは産地として丹波の香りのするもの、使う人が心地よいものをずっと作っていかたいですね」と語る市野氏の周りには、とても端正なデザインで、几帳面な器が生きていて、身近に置いて使いたくなる器ばかりでした。

南北に窯元が集まる今田町上立杭のちようど真ん中あたり、「陶の郷」や「兵庫陶芸美術館」と四斗合川を挟んで丹波一窯はあります。当主の市野悦夫氏は「鉄蒔」と名付けられた赤い釉薬のとても美しい作品が有名で、日本伝統工芸展には15回も入選を重ねておられます。そのような魅力的な作品を生み出す秘訣を伺いました。



丹波の手仕事
匠の技 7
丹波一窯「釉薬」市野悦夫氏

「窯では、一昨年復興された「最古の登窯」を三〇年ほど前までは数軒の窯元で共同使用しており、当時は植木鉢を主に作っておられたそうです。「この最古の登窯は、明治に作られた頃には燃料が少なくて、大量の製品を短い時間で焼くことのできる効率のよい窯だったんですね」と市野氏はおっしゃいます。

丹波焼は古くから自然釉の美しさで知られ、伝統的な釉薬として灰釉、赤土部の赤や栗皮釉、黒の美しい色釉が使われていました。しかしいつの頃からか伝統的な釉薬を使うことが少なくなり、工業的な釉薬を使うことが多くなっていたようです。

京都の専門学校を卒業後、家業の植木鉢作りに従事しているうちに、自分の仕事が多くなってきたことと、その頃丹波焼の古いものなどに興味を引かれ、中でも古丹波の有名な茶入れ「生野」の釉薬の美しさに魅力を感じ、釉薬の研究を始めました。

兵庫陶芸美術館 展覧会の見どころ

●特別展のご案内

丹波焼と三田焼の粋を集めて
—森基コレクションの名品—

平成29年3月4日(土)～5月28日(日)
実業家森基(もり・はじむ)氏は、丹波焼(兵庫県篠山市)と三田焼(同三田市)に魅せられ、50年以上にもわたり精力的に収集しています。本展ではそのコレクションから約160点を選び、丹波焼の变幻自在ともいえるスタイルの変遷や、三田焼の豊富なバリエーションを紹介いたします。

三田「青磁龍波清文盃洗」江戸時代後期 個人蔵



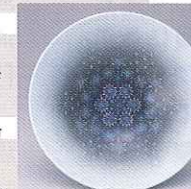
マイセンの美 —いとしのフィギュリン 華麗なるセルヴィス—

平成29年6月10日(土)～8月27日(日)
ドイツのマイセン磁器製作所は、300年を超える歴史の中で多くの魅力的な作品を生み出しました。本展は、19世紀のフィギュリン(陶製人形)やセルヴィス(食器セット)など、約100点の岐阜県現代陶芸美術館・小早川コレクションによって、マイセンの鮮やかで優雅な世界を紹介いたします。

マイセン磁器製作所「五感の寓意「聴覚」」
原型製作者：ヨハン・カール・シェーンハイト
原型制作年：1772年／作品製造年：19世紀後半
岐阜県現代陶芸美術館(小早川コレクション)

今右衛門の色鍋島

平成29年9月9日(土)～11月26日(日)
江戸時代に佐賀・鍋島藩で製造された色鍋島は、精緻さと洗練されたデザインで、格調高い美しさを誇る色絵磁器。藩で代々御用赤絵師を務め、その美質を今日まで伝える今泉今右衛門家で、新しい時代に相応しい美と品格を追求し創り上げられた、色鍋島370年の造形美に迫ります。



十四代今泉今右衛門「色絵清墨墨はじき時計草文鉢」2007年 個人蔵

兵庫陶芸美術館 〒669-2135 篠山市今田町上立杭4 電話：079-597-3961 (代表) HP <http://www.mcart.jp>

●テーマ展のご案内

かわいいやきものわきあいあい

平成29年3月4日(土)～5月21日(日)
昨今、「かわいい」という言葉で形容されるものは多様化するとともに、「きもかわいい」などの派生語も生まれています。本展はそんな「かわいい」に焦点をあて、「これぞ「かわいい」」やきものから「これって「かわいい」？」やきものまでを、当館所蔵品より紹介します。



珉平「色絵鶴形香合」
江戸時代後期～明治時代
兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)

四代永澤永信展

平成29年6月10日(土)～8月27日(日)
四代永澤永信(1938-)は、出石焼の産地(兵庫県豊岡市)で活躍する陶芸家です。伝統的な白磁に、自然から得た心象風景を映し出したうつわを中心に制作しています。本展では、初期のオブジェから、日本現代工芸美術展の文部科学大臣賞を受賞した「霖雨」(2015)までを紹介いたします。



四代永澤永信「湖愁」1995年
兵庫陶芸美術館

イベント案内

◆丹波篠山さくらまつり

「見て、味で、観て、春のささやま」をテーマに、恒例の春の丹波焼陶器市・銘木変木市を開催します。篠山の和菓子や観光大使が丹波焼茶でもてなす「お茶席」など、篠山ならではの地域の特性を活かしたイベントが盛り沢山です。

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで
篠山城跡三の丸広場

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)
●会 場 午前10時～午後4時まで
篠山城跡三の丸広場

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

●内 容 篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

●期 間 4月8日(土)～9日(日)

●会 場 午前10時～午後4時まで

丹波伝統工芸公園

立杭 陶の郷

〒669-2135 兵庫県篠山市今田町上立杭3
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232
URL <http://www.tanbayaki.com/>
【入園料】高校生以上 200円
小中学生 50円
開園時間
4月～9月 AM10:00～PM6:00
10月～3月 AM10:00～PM5:00
年中無休
但し、年末年始は除く

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

窯元横丁

丹波焼の窯元すべての作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしくあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティスト的な作品まで、約52軒の窯元のさまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分であらためてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸体験してみませんか？初心者の方には手びねりや板づくりで、腕におぼえのある方には電動ロクロでの本格的な陶芸作品に挑戦していただけます。釉薬をかけて焼き上げてから、ご自宅まで宅配便で発送いたします。あなただけのオリジナルやきものをつくってみるのも楽しいですよ。

丹波焼は、その時代の求めに応じて800年もやきものを作り続け、国の伝統的工芸品の指定を受けています。生活様式が洋風になり、和食器のイメージが強い丹波焼の新しいファン獲得を目指して、現代の生活に合い、使い易く新しい魅力のある洋食のための器としてTanba Style(タンバスタイル)は提案されました。インターネットの通販サイトから購入できるようになりました。

スタート～ブランド立ち上げ～そして今

創立メンバーのおひとり 市野秀之さんに伺いました

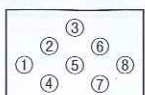
「丹波焼をもっと全国に売り出し広めるには」「産地全体の活性化を図るには」「将来を考えていくと、何をすべきか」等々、機会あるごとに市野元祥さんをはじめいろいろな人と話し合っていました。2012年秋篠山市商工会の職員に長年胸に描いていたプランを披露した事がきっかけで、12月には会を立ち上げ、翌年から篠山市商工会の支援を受ける活動をスタートしました。いざ同じ思いを持つメンバーが集まりましたが「何をどうやるのか」まったくの手探り状態。

試行錯誤の1年でしたが、テーマは「洋食のための器」と決めました。今までの丹波焼でも、洋食に使えるものもありましたが、より料理が映えるよう各々が工夫を凝らし、2014年3月のグランフロント大阪での発表につながりました。地元有名シェフの手で、篠山の食材を使った見事な料理の数々がメンバーの器に盛りつけられました。来場された方々からは「すごくおしゃれ!」「器で料理の印象がこんなに変わるものか」等、たくさんのうれしい反応がありました。



マグカップの作家名(敬称 略)

①市野太郎 ②清水義久 ③市野勝機 ④市野元祥
⑤市野秀之 ⑥田中 聡 ⑦市野哲次 ⑧大西雅文

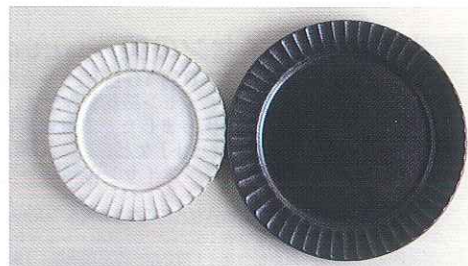


同時にこれからのことを考えると、サイズ・形・色を統一したオリジナルブランドが必要だと、意見がまとまりました。普段はそれぞれが独自にやっていることをメンバーで話し合いを重ね、試作を持ち寄り改良していく作業が半年あまり続き、そして納得いくものが出来ました。

ブランド名は「TS(ティーエス)」と

「TS+(ティーエス・プラス)」

「TS」形は、スタッキングボール、リムプレート(縁のある丸皿)、スクエアプレート(角皿)、オーバルプレート(楕円皿)、マグカップ、ビアカップミニ。丹波焼で使われている民芸の技法「鑄(しのぎ)」を取り入れました。色は「丹波黒」の艶を消したマット調の黒「TS Black」。「白丹波」をイメージした「TS White」の二色。



縁の部分に「鑄」を施したリムプレート

「TS+」「TS」と形は同じにして色や技法は各自が自由に表現できるようにしました。

2014年12月グランフロント大阪で、「TS」「TS+」の器を使ってプロの手でXmasディナーの飾りつけが施された華やかな会場で新ブランドの披露、器と盛り付けのセミナー、レセプションパーティなどイベントが催されました。

東京では、インターナショナルギフトショー(日本最大規模の業者向けの見本市)、ジャパントラデショナルクラフトウィーク(「日本各地の伝統的な工芸と出逢う」をテーマのイベント)などに出演しました。来場者からも好評でメディアにも数多く取り上げられるようになりました。

現在、Tanba Styleの代表を務める市野勝機さんは、「それぞれ個性の違う8つの作品が並ぶと、改めて自分らしさを考える機会になります。今までにない色ややったことのない形に挑戦できたのもブランドを立ち上げたからでしょう」とこれまでをふりかえり、「昨年に引き続き2月に、東京インターナショナルギフトショーに出展し、新しく『TS Morning(ティーエス モーニング)』を発表しました。これからも、丹波らしさを忘れずに、ますます良い品質の器を目指し、アイテムも増やしていきます」と語られています。



メンバー紹介(敬称略)

上段左から市野元祥(壺市) 田中聡(丹水窯) 市野太郎(◎源右衛門窯)
下段左から大西雅文(丹文窯) 市野哲次(市野悟窯) 市野秀之(雅峰窯)
市野勝機(陶勝窯) 清水義久(丸八窯)

お問合せ先 Tanba Style事務局
篠山市商工会 TEL:079-552-0758 FAX:079-552-2531
Mail:info@tanbayaki.net
通販サイト https://tanbayaki.net/

(取材・文:小牧和子 増田知子)

平成28年11月
「丹波焼の里 最古の登窯」

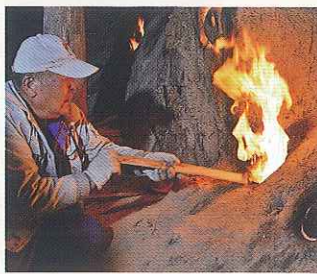
前年に引き続き今回も大勢の方が
参加して焼成

明治28年(1895年)に築窯され篠山市今田町上立杭に現存する丹波焼「最古の登窯」は兵庫県の有形文化財に指定されています。しかし経年劣化が激しく、平成26年より二年をかけて、最古の登窯復興委員会と丹波立杭陶磁器協同組合が中心となり、多くのサポーターや一般の方の協力で大修復を終え、27年秋に初焼成を行いました。そして28年秋も一般、サポーター、中高大生、ボランティア、窯元の作品など約千点を焼成しました。

そして今年も上の方は竹で焼きましたよ

「竹ばかり三十本!」「竹三十!」:「次、松十本、竹十五本行こ!」「次はどうする?松で二十本?いや、もうちょっと置こ!」「ほな二つ目の穴行こ!松十本竹十本で!」今回の竹焼成のリーダー、山地峯雄さんの声が上がります。窯の向こうとこちら側で息を合わせて横穴に投入する、窯焼きの中の「攻め」の作業となっていました。

平成28年11月。丹波焼の里、「最古の登窯」の窯焼きは18日から始まり三日目の夜となっていました。6袋目が終わりで7袋目とかかかってきて、いよいよ竹を入れての焼成となりました。竹は燃やすすぐに高温になるものの、粘りが無くあつという間に温度が下がります。粘りがあるのは松です。松と竹の両方を組み合わせて投入しながらの窯焼きとなります。(この竹は兵庫立篠山東雲高校の生徒との協同作業で伐採と薪作りを行いました)火の色や勢い、器の表面の照りを見ながら薪を入れていきます。7袋と8袋には竹焼成プロジェクト(薪



海外からたくさんのお客様が

この窯焼きには海外からのお客様も大勢いらつしゃいました。そのお一人香港から来られた黄さんにお話を伺いました。こちらに滞在しながら毎日見学に来られた熱心な方です。「こんな長い窯は初めてです。横穴から薪を入れるのも初めて。たくさん竹を入れたときは瞬間に炎がボツとなって凄かった。みんなで窯焼きして、とても楽しいです!」と笑顔で答えてくださいました。



竹を投入する黄さん



燃料の改革実験研究事業・環境問題化しつつある放置竹林の竹。その有効利用の一つとして、松の代替燃料として竹が有効かを探索)メンバーの私たち陶芸文化プロデューサーが中心となり、窯元さんの指導のもと窯焼きを進めていました。温度計は1230度。焼き物としては十分焼けている温度ですが1300度まで上げて竹でどうなるのかを見たいので、強烈な熱さの中まだまだどんどん上げていきます。中の物はどうなっているだろう。不安と戸惑いや疲れと。でもなんでも楽しんでしようがないのは火の力なのでしょか。窯焼きは21日の早朝によ

うやく終了しました。さあ、中の物はどうだったのでしょうか。そして一週間後いよいよ窯出しです。朝から雨の降る中、窯を開けると: 私たちの成果は兵庫陶芸美術館の情報コーナーに展示していますので是非実物をご覧ください。

平成28年度

兵庫県文化賞受賞

西端 正氏(末晴窯)



丹波焼を代表する作家として豪快な造形と表情豊かな施釉で見る物の心をとらえる作品を作られ、また伝統を引き継ぐ後進の育成にも努めるなど、美術の振興に尽くされたとして「兵庫県文化賞」に西端正氏が選ばれました。

「焼き物始めておよそ48年。自分の好きなことをやってこられて、このような賞を頂くことができて率直に光栄であり、有りがたいことです。原料となる物を歩いて探し、窯を何度も作り直し、全て作りたいものを作るためにやってきました」

にこやかにそして真つすぐに西端氏は答えてくださいました。

この賞は兵庫県を活動の拠点とし、芸術・文化の高揚に貢献し、その功績が顕著な方に贈られるもので、今年度は西端氏をはじめ、岡田淳氏(児童文学作家)桂 文珍氏(落語家)河内厚郎氏(文化プロデューサー・演劇評論家)永井和子氏(音楽家)の5氏が受賞。

これまでに丹波焼では、市野弘之氏(昭和34年)大上昇氏(平成11年)市野雅彦氏(平成23年)の4氏が受賞されています。

平成28年度

兵庫県技能顕功賞受賞

丹波焼から三人の方が受賞されました。(陶磁器焼成工部門)

大上 巧氏(大熊窯)
大西 誠一氏(丹誠窯)
大西 文博氏(丹文窯)

取材・文 上田智津子

源泉かけ流しの日帰り天然温泉

コンパニスト温泉
ゆめもりの郷

緑に囲まれた広い露天風呂で
ゆったり、のんびり
農産物直売所、レストランも併設、
1日ゆっくりお過ごしください。



◆入浴料◆
大人 700円
(12歳以上)
小人 300円
(6~11歳)

営業時間
AM10:00~PM10:00
(PM9:30受付終了)
定休日 毎週火曜日(祝日は営業)
〒669-2153
兵庫県篠山市今田町今田新田 21-10
TEL.079-590-3377

http://yume-konda.com/

